

---

第9回 日野町議会定例会会議録 (第3日)

令和2年12月10日 (木曜日)

---

議事日程

令和2年12月10日 午前10時開議

日程第1 一般質問

通告順番6 8番 佐々木 求 議員

通告順番7 1番 中山 法貴 議員

---

本日の会議に付した事件

日程第1 一般質問

通告順番6 8番 佐々木 求 議員

通告順番7 1番 中山 法貴 議員

---

出席議員 (10名)

1番 中山 法 貴

2番 梅 林 敏 彦

3番 山 形 克 彦

4番 金 川 守 仁

5番 松 尾 信 孝

6番 中 原 信 男

7番 安 達 幸 博

8番 佐々木 求

9番 竹 永 明 文

10番 小 谷 博 徳

---

欠席議員 (なし)

---

欠 員 (なし)

---

事務局出席職員職氏名

局長 ————— 伊 田 喜 浩 書記 ————— 神 崎 猛

書記 ————— 音 田 雄一郎

---

### 説明のため出席した者の職氏名

町長	—————	埴田淳一	副町長	—————	音田守
教育長	—————	生田進	総務課長	—————	渡部裕之
住民課長兼会計管理者	——	遠藤律子	企画政策課長	—————	荒木憲男
健康福祉課長	—————	住田秀樹	産業振興課長	—————	角井学
建設水道課長	—————	飛田朋伸	教育課長	—————	砂流誠吾

---

### 午前10時00分開議

○議長（小谷 博徳君） おはようございます。ただいまの出席議員数は10人であり、定足数に達していますので、これより令和2年第9回日野町議会定例会3日目を開会いたします。

本日の定例会は、マスク着用や換気に留意するなど、新型コロナウイルス感染症対策を講じて進めますので、御理解のほどお願いいたします。なお、出席議員には、例規の確認のためタブレット端末機使用を許可しております。

直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付いたしました日程のとおりであります。

---

### 日程第1 一般質問

○議長（小谷 博徳君） 日程第1、一般質問を行います。

昨日に引き続き、2名の議員の一般質問を行います。

通告順に発言を許します。

8番、佐々木求議員の一般質問を許します。

8番、佐々木求議員。

○議員（8番 佐々木 求君） 私は通告に基づきまして、今回は2点にわたって質問を行いたいと思います。

まず最初に、介護保険の質問であります。御存じのように、第7期の介護保険計画期間で、3年間で積み立てられた基金、約4,650万円となりました。単純にこれを考えますれば、被保険者からそれだけたくさんのお金を取り過ぎたということになります。月額基準額で7,459円、年間で8万9,000円、この高さというのは、中国地方で見ても、西日本でも本当に唯一もう断トツに高いものになりました。しかし、受けるサービスの質が悪くてもいけませんから、どうしてもこの個人負担というものが、ある程度仕方がない内容になっております。そのために

我々も認めてきたわけでありますが、この3年間でこれだけの基金ができたということは、取り過ぎたということは、逆に言えば、返す必要があると思います。

そこで町長にお尋ねをいたします。その原因は一体何であったとお考えでしょうか。そしてさらに、西日本でも断トツの高額になっていたが、この理由をどのように考えておられるか。当然のこととして、本来取り過ぎたものは返すということが基本であります。どのように対応されるのか。4番目、こうしたことを踏まえていけば、次期には当然減額や見直しをやるべきだと私は考えますが、減額すると大まかにどの程度になることを考えられておられるのか。5、市町村に運営を任せるこの制度の欠陥は明らかだと私は考えておりますが、改善を求めなければならないと考えます。どのように町長はこの問題を捉えられておられるか、お尋ねをしたいと思います。

次に、ライフライン全般についての質問であります。決算の際にも、これまでも度々、人口が多いところや一部のところが少ない予算で大きな効果を上げるという考え方の下、上下水道などでも整備や改修、修理を優先されてまいりました。今後、こうしたものが大規模な事業も改修、改善のためにも行われることが予測される中で、それ以外の周辺の集落には上下水道をはじめとしたインフラの整備、非常に遅れているところもたくさんあります。政治の平等性の問われる問題ではないかと私は考えております。

そこで町長にお尋ねいたしますが、この間、政治のこうした果実が安心・安全な生活を町民が送っていく上で、公平に配分されてきていると考えておられますか。2番目、指摘には考えていくような、これまでも決算の際にも適当な答弁が多いわけですが、それぞれの課題、計画が示されていないのはなぜでしょうか。3番目、ライフラインの整備計画が求められていると考えますが、どのように捉えられておられるか、お尋ねをいたします。よろしく申し上げます。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） おはようございます。8番、佐々木議員さんの御質問にお答えしてまいりたいと思います。

まずは、介護保険の関係でございます。基金が大幅に増額した原因はとの御質問でございます。介護保険料は介護サービス利用に係る給付費等の見込みを立て、その給付費等を国が定めた公費負担と、被保険者負担の負担率で計算したものとなります。第6期の計画期間である平成27年度から平成29年度の介護給付費は、見込みをかなり上回る増加でありました。これにより、この計画期間中に保険料で賄うべきであった3,200万円が不足するという事態が生じてしまい、その不足額も第7期の保険料で埋め合わせをしなければなりません。また、第6期での介護給付費の増加を考えると、第7期の給付費増加の見込みは致し方なかった部分があり、それに

より保険料が高額になったものと認識しております。しかし、平成30年度から要介護認定者、介護給付費ともに見込みをかなり下回り、各年度の決算において発生した剰余金の一部を基金に積み立てております。給付費の減少は、要介護3以上の重度の被保険者数が減ったことにより、介護老人保健施設等への入所者数が減少したことが大きな原因で、百歳体操をはじめとした介護予防事業や、わすれんぼカフェなどの認知症予防事業等の成果が徐々に現れてきた結果だと推測しております。

次に、西日本でも断トツの高額になっていたのはなぜか。先ほど述べましたとおり、第6期計画での不足分の3,200万円を第7期計画で埋め合わせしなければならなかったことと、介護給付費の大幅な上昇が大きな原因と考えます。今後は介護予防事業などをさらに充実し、給付費抑制に努めていくことが重要であると考えております。

次に、取り過ぎのものは本来返すべきではないかという質問でございます。制度上、被保険者への返還はできませんが、第7期計画の期間中に積み立てる予定の基金の取扱いについては、第8期介護保険事業計画策定委員会での意見を聞きながら、方向性を決定していきたいと思っております。

8期、減額見直しをやるべきだが、どのように考えてるかというような御質問でございます。第7期計画期間中に、積立予定の基金の一部取崩しを前提に見直しを考えております。ただし、このまま給付費の右肩下がりが続くとは思えない現状もございます。現在、ピーク時と比較し、要介護3以上の重度の方が減少しておられます。それにより、介護老人保健施設等への入所者が減少しておりますが、軽度者については増加しており、予断は許さない状況となっております。このことから、しっかり給付費の見込みを立て、適切な保険料の決定ができるよう準備してまいりたいと思っております。

次に、市町村に運営を任せるこの制度云々、欠陥はっていうような、そういった趣旨の御質問でございます。世界一の長寿国である日本、要介護高齢者の増加、介護の長期化など、介護の必要性や重要性がますます高まり、介護する側の高齢化なども深刻な問題となっております。核家族化の進展などにより、家族だけが介護することが困難な時代を迎えたことから、介護保険制度がつくられました。介護保険制度は、介護が必要になった高齢者の方や、その家族を社会全体で支えていく仕組みです。介護が必要になるのは限られた人だけではなく、誰にでもその可能性はあります。このようリスクを多くの人で負担し合い、万が一介護が必要になったときにサービスを利用できるようにする制度でございます。御質問のとおり、介護保険法により市町村が保険者となり運営していくこととなっております。また、介護保険料の設定につきましては、かなり

の地域差があるというのは大きな課題であると考えております。第7期に介護保険料の大幅な値上げを実施したことは、住民の皆様に変な負担をおかけしたと思っております。国による激変緩和措置の制度設計など、保険料の地域間格差が課題とならないような手当てが必要なのではないかと考えております。

次に、ライフライン全般についてということで御質問をいただいております。政治の果実が安心・安全な生活を送る上で、公平に配分されていると考えてるかとお尋ねでございます。特に、例えば生活排水の処理につきましては、日野町生活排水処理基本計画に基づいて、日野町内の全地域を合併処理浄化槽、公共下水道、農業集落排水の整備区域に分けて整備を行っております。合併処理浄化槽を整備する場合には、国、県、町の補助制度を利用し、整備を行っているところでございます。上水道につきましては、整備計画は現在、策定しておりませんが、例えば簡易水道給水地域を拡張することについては、過去においても、希望される集落がある場合には、地域全体の合意形成の下で、随時拡張を進めていたところでございます。いずれにしろ、水道、生活排水処理については、今後も実情に沿った支援対策を検討していきたいと考えております。

次に、指摘には考えていくような答弁が多いが、それぞれの課題、計画が示されていないのではないかとのお尋ねでございます。井戸利用者は簡易水道利用者と比べ不公平感があるとの指摘でございました。確かに簡易水道利用者と違い、井戸使用者は電気代や修繕料などの費用がかかり、その部分が公平ではないという気持ちも察します。しかしながら、経費だけということになりますれば、例えば簡易水道利用者は毎月の水道料金として、一般家庭の平均の使用料として、水道利用料、20立方メートルで2,640円程度をお支払いいただいている、トータルの費用負担を考えると、一概には不公平とは言えないと考えます。いずれにいたしましても、不公平感があるとの御指摘ですので、よく実態について聞き取りをするなど、どのような工夫、対策が必要か検討してみたいと考えております。

次に、ライフラインの整備計画が求められてきていると考えるが、どのように考えてるかとお尋ねでございます。ライフラインとは日常生活に必須な社会インフラであり、電気、ガス、水道、下水道、道路等の公共公益設備、電話やインターネット等の通信設備、鉄道、バスなどの輸送手段などがありますが、町としては水道、下水道、道路などが該当すると考えます。この中で、町道にかかっている橋梁やトンネル等につきましては、平成26年から計画的に点検を行っており、点検結果を基に長寿命化計画の策定を行っております。町道の修繕計画につきましては、今後、道路ストック点検を実施し、道路長寿命化計画を作成し、長寿命化を図る必要があると考えます。ただ、修繕計画を策定するに当たっては、相当な経費がかかりますので、より有利な補助

制度等を活用して実施していく必要があると考えます。公共下水道の維持管理につきましては、処理場については平成28年に長寿命化計画を策定し、29年から改修工事を行っており、今年度完了する予定でございます。全体計画につきましては、ストックマネジメント計画を令和元年度より策定し、管路、マンホールポンプ、処理場について計画を策定中でございます。以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 8番、佐々木求議員。

○議員（8番 佐々木 求君） それでは、まず介護の問題からいきたいと思いますが、大体この策定が……。

○議長（小谷 博徳君） マイクを近づけてください。

○議員（8番 佐々木 求君） この計画が、第7期の計画が策定されたときに、7,459円、これが標準月額となったわけではありますが、このときに大体西日本あたりのを調べてみますと、普通大体5,500円ぐらいまでです。と考えると、年間6万円程度の負担のところを、うちは8万9,000円、約9万近くの負担をお願いするということに結果的にはなりました。こういうことを考えると、単に鳥取県や島根県、高いということだけを問題にしとるんじゃないんです。結論的に言えば、見込みがなぜそういう見込みをされたかというのも分かります。急激な伸びがあったのも事実です。したがって、我々としては、そのときには仕方がなかったという捉え方をせざるを得なかったし、そうしないとこの制度が持続できないのも分かっていました。

そこで、やっぱりこの大きさですね、年間でいえば3万も4万も高くなるというところ、負担を強いていかないけんというところにどう立ち向かうかということが非常に大事になってくるわけです。当然、答弁の中にもありましたように、基金を使って、国や県から借りたものを返していかないけん、借入金の返済ということもあります。大体1,500万とか2,000万とかの範疇ではありますが、いずれにしても、それをやりながら、激変緩和をしてもそれだけだったということなんです。ですので、私は今回の改定に当たっては、きちんとこの剰余分については割り出して、それを全部使えというわけではありません。一定の金額を返す必要があると思いますが、その点について町長、どのようにお考えですか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 第6期から第7期に移るときに、保険料率の算定、いろんな要素を加味して、本当に地域の住民の方には大きな御負担をお願いしたということでございます。日野町の保険料が本当に断トツっていうか、非常に高い。それは全国のいろんな保険料を定めました、前後してですね、保険料を定めるっていう、そういうような情報、新聞紙上に掲載されたりメディ

アに出たりする、そういった中で、皆様方には本当に御無理をお願いしたかなと思っております。ただ、それはその年の4月以降、各地域に出かけていきまして御説明した中でも、いろいろなお話を伺う中で、やっぱり介護サービス、そういったものをしっかり受ける、そのための必要経費、そういうふうを考えるのかなってというような御意見をいただいたっていうのを覚えております。

そういった中で、7期、高い、その保険料で今、走らせていただいたわけですけど、結果として、多くの、どういうんですか、基金が多くなったっていうことで、これは議員さんおっしゃられる返すっていう概念がいいのか、それとも次期に適切になっていうか、保険料のほうに還元するっていう言い方がいいのか、ちょっと言葉を選ぶんですけども、第8期の保険料の算定に当たって、その原資っていうんですか、に充てないといけないなっていうふうに考えております。

○議長（小谷 博徳君） 8番、佐々木求議員。

○議員（8番 佐々木 求君） これは、私は返すという表現しましたけれども、現実にはなかなか一人一人にというわけにはいかないでしょうから、やはり町長言われたように、月額を下げていくと、基準額を下げていくということが大事だと。クラスも9クラスですか、段階があって、非常にそういう点でいえば、高い人なんかは大変だろうとは思いますが、やはり基本はこうした標準月額を下げていくというところから出発しなければならないという具合に考えます。

そこで、町長がさっき述べられました中に、非常に大きな点が、大事な点があると思うのは、医療もそうなんです、健康寿命をいかに延ばしていくか。そういう点から考えると、ほかの事業、ほかほか教室をやられたり、わすれんぼカフェをやられたり、こうしたことは本当に予防事業として大事だと思います。大いに普及はさせていかなければなりません。しかし、この制度の、あくまでも根本的な欠陥を私は押さえておく必要があると思いますが、町長はこれ、どのように受け止めておられますか、この制度を、その点では。

○議長（小谷 博徳君） この制度いやあ、もっと具体的に。

○議員（8番 佐々木 求君） 介護保険制度の一番大きな問題点は何にあるとお考えでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 先ほどの本問のほうでも若干そういう趣旨に触れられ、また、私のほうもそれについてちょっと述べさせていただいて、重なるとは思いますが、介護保険制度、みんなで支え合う、そして介護保険制度を、我々も年を取っていく、そういった中で、絶対そういう制度を利用しないよっていうようなことはほとんど考えられないだろう、みんなで利用する制度。そういった中であって、やはり今、第7期で日野町が保険料率が高くなった、具体の金額も高くなったっていう、地域間格差があるっていうのも一つの大きな課題である。さらには、そ

ういった課題を解決するために、激変緩和っていうようなものが国でも準備されてるんですけど、まだまだそれが十分でない、保険料の地域間格差が過大とならないように、そういう手当てが必要じゃないでしょうかっていうことを本問のほうで述べさせていただきましたので、そのように考えております。

○議長（小谷 博徳君） 8番、佐々木求議員。

○議員（8番 佐々木 求君） この問題は、私が提起しているのは本当にしっかりと押さえていただきたいですが、実は全国の町村議長会でも、介護保険、高齢者福祉の充実強化という項目で、12項目にわたって国に意見を上げております。この中で一番重要なのは、この介護保険制度は、本来、国が主体となって運営すべきものだと、そこまで書いております。それは全国の知事会も同じようなことを言っております。一番大きなポイントは、まずそこにあるんです。なぜこういうことが起きるかという、今まで高齢者の福祉の場合には、大体国が30%持っていました。それで、今は25%なんです、4分の1なんです。その相差を誰が埋めるか、利用者なんです。この被保険者に対する負担を非常に強くしてる、そこに地域間格差が大きく出てくる問題の本質があると私は考えておりますが、その点、町長、どうですか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 介護保険制度について、特に地域間格差、生じる、その原因っていうのは、それぞれの基礎自治体が運営するような制度、さらには国費の割合が、介護保険、低いためではないのかっていうような議員さんの御指摘なんですけれども、それちょっとしっかり勉強してみたいなと思います。今々はこういう制度になっておりますけれども、ちょっと勉強いたしまして、全国の市長会、都道府県知事会、全国の議長会、そうしたら全国の町村会も、同じような要望を上げてるかなと思いますので、それは見てみたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 8番、佐々木求議員。

○議員（8番 佐々木 求君） ぜひ勉強していただいて、県内出身の国会議員もおられるし、制度の改善を求めていくという根本的な精神をしっかりと持って、立ち向かってもらいたいと思います。

私は実は、実にショックだったんですが、昨日ちょうどたまたま帰ったときにテレビつけましたら、コロナ禍の問題もあって、全国の介護事業者110社ぐらいが倒産しております。これは一方では、単に我々が負担を下げれば良いという考え方だけ持ったって駄目で、実際には国の支援がなければ、こういう事態が今、深刻になってきてる。介護従事者が次々と辞めたり、あるいは事業所そのものが全国で110か所以上も倒産している、こういう実態がありますので、



一方的に私は国に出せと言うだけじゃない、制度設計そのものも考えていかなきゃならない時期に来ているんだということをあえて申し上げておきたいと思います。

これで一応この問題は送りますが、次に、ライフラインの問題です。この問題は、私はこれまで何度か取り上げてきた経緯があるんです。例えば、町がやらなければならないライフラインといいますが、確かに下水や上水もあります。しかし、よく考えてみると、非常にライフラインといえ幅が広いんです、御存じのとおりです。そこで、例えば上水の問題一つ取ってみてもそうだと思うんです。井戸を掘って対応しとられる地域もあります。それから、あんまりこれはどうかと思うぐらい、伏流水といいますが、取って、谷水を、それで一応浄化させて、浄化というか、浸透させて使うとかいうようなところもあるようですが、いずれにしても、こういう町の簡水があつたりするところは、それなりに町が責任を負って、安心・安全な水を供給するようになっていきます。検査もしっかりやっておられます。しかし、井戸を掘る人あたりは、その井戸が本当に安全で安心な水なのかどうかいうことは、多分ほとんどの方が検査もしておられん、何十年もしてないという方がたくさんおられると思うんです。これではやっぱり地域の町民の安心・安全な生活用水を守るというところにまでできてないんじゃないかと言わざるを得ないと私は考えるんです。

そうすると、じゃあどうすればいいのかというときに、私もちょっと経験があるんですが、自分で井戸の水の検査をすれば、項目数は少ないですけど、そんなに高くない。でも、何万もかかります。町がやるようなきちとした検査をやろうと思えば何十万もかかっちゃいます。それを全部補償することはできないにしても、同じように納税者であり、同じように税金を納めておる住民に対して、そういう安心・安全な水を供給することとはどういうことかということを考えて、例えば毎年じゃなくても、二、三年に一度でもいいから水質検査を手伝ってあげるとか、そんなに高い検査でなくても、大腸菌ぐらいの検査は簡単なことなんです。そういう制度を構築していく、考えていく、納税者に対してきちんとしていく、それが大事じゃないかと思うんです。下水にしてもそういうことなんです。非常にたくさんの、公共下水にしても、農集にしても、投資するときには、我々は税金をそこに多額なものを投入していきます。一方で、地域から外れた人たちは、特にそういう対象にならないわけです。だから、私はそういうことを本当に真剣に考えて、計画をつくる必要があるじゃないかと。

実は、ここには計画があるということを盛んに書いておりますが、あんまり計画ができていないのが事実じゃないかと思うんですが、町長はやっぱりこの計画が、できると言われた計画が着実に前進しとるお考えですか。

○議長（小谷 博徳君） 埜田町長。

○町長（埜田 淳一君） この計画ということで、日野町生活排水処理基本計画であったり、あと公共施設、道路長寿命化計画、そういったことを議員さんはおっしゃられてるのかなと思います。生活排水処理基本計画につきましては、合併浄化槽を整備する場合には補助制度を用意しておりますってことで、この予算につきましては毎年議会のほうにお諮りして認めていただいておりますが、不執行になる場合もあります。計画に基づいて御利用していただきますようになっていこうことで取り組ませていただいておりますので、どういうんですか、ちゃんとできてるかっていうと、それは実績からしたらまだ十分ではないのかもしれませんが、そういう進め方させていただいておりますし、一方で、道路の長寿命化計画のほう、橋梁、トンネル点検、計画的に点検を行って、腐朽っていうか、不具合があるところについては、これ計画的に改修、そういったことを進めるようにさせていただいております。まだあんまりそんなに大きな実績はないと思いますけれども、そういう取組をさせていただいてると認識しております。

○議長（小谷 博徳君） 佐々木求議員、再質問は具体的回答と求められる項目順なのか、全部ひくくめてか分からない部分がありますので、項目に沿うなら項目に沿ってやっていただいたら、回答もきちっとできるじゃないかなと。

8番、佐々木求議員。

○議員（8番 佐々木 求君） そこで、私は今、町長そういうこと言われました。それで、この回答には中心的には上下水って書いてあります。ですが、私は、こうしたことは基本ではあるんですが、当然計画どおり進めてもらわにゃいけません。例えば議会で指摘されて、町部あたりは、これもライフラインの一部だと拡大解釈もできることなんです、やっておられることもあるんです。例えば町部にはごみ袋出します。家の前に出せば回収してくれます。在のほうはどっかに持って集めていくようになっております。そこでお年寄りさん方が大変だというんで、小さな袋も、可燃物用の小さな袋もつくりました。でも、基本はやっぱりそういうことをやっとなるわけです。

つまり、私が言いたいのは、上下水もそうなんです、やっぱり今、加わられてない方々については、どうすれば解決するのか、どうやらにゃいけんのか、ここが真剣に検討されないといけないと思うんです。上水にしてもそうなんです。なぜかという、特に公共下水あたりは、今現在やっておられない人は、やっぱり一番年寄りのの方が多くて、独居で、しかもこういう方たちは、子供さんも帰ってこんから、もういいわと、これ以上金をかけたくないわというような方もおられると思うんです。だけど、本当はそういう方々こそがそういう制度を、上下水はきちんと整備

する必要があると私は思っていますが、そういう相談がしっかりとできて、資金の対策がそれなりに打てるということに持っていかないと、今の加入率を向上させるちゅうことは無理だと思います。その点はお分かりだと思いますので、こういうことをそのままにしておくんじゃなくて、やっぱり一步一步工夫を重ねていく、対策を取っていくということが非常に基本的なスタンスとして、町のスタンスとして大事ではないかと思うわけです。それでこういう広げた物の言い方しとるんですが、これはほかのことでも言えると思いますが、町長あたり、どの辺、どう思われておられますか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） ライフラインの中でも、特に排水、上水、そして一番最終はごみの関係のお話ございました。まさに日野町にお住みになって生活する上で、大切な部分であろうと思います。生活排水につきましては、先ほど申しましたいろんな計画を立てて準備をさせていただいてるんですけども、それが十分お伝わりしてないものもあろうかと思ひますし、御相談をしっかりと受けていきたいと思ひます。上水につきましては、簡水区域の拡張っていうことを過去も地元、地域全体の合意の下で進めさせていただいた、そういった取組もありますが、議員おっしゃいましたように、井戸の関係ですよ。そういったことについて御懸念、さらにはこういうことをしてほしいなっていうような、恐らくお話もあるのかなと思ひます。そういったものにつきましても、実態というか、関係される住民の方、いろいろお話を伺って、実情に沿った支援策、そういったものを構築していかなければならぬだろうなっていうふうに考えます。

○議長（小谷 博徳君） 8番、佐々木求議員。

○議員（8番 佐々木 求君） そういうことなんです。それで、具体的に物を進めていかないけんときに、私は全てのほかの事業にしても、例えば町道の問題でもそうです。議会で久住に要請があつて出かけたときには、橋のたもとを直していただいたわけですが、そのときに、我々が申し上げたのは、担当者の人たちに申し上げたのは、全町でこういう箇所がたくさんあるんじゃないかと。やっぱり位置づけて、そういうチェックを一度は地図に落としておいて、その上で、それでも緊急に対応せないけん仕事が出るかもしれませんが、1年に少しずつでも直していくとか体制を取っていくとかということをやらないと、大きな声が出たところだけに対応していくという流れが基本的に拭い去られない。だから、それに基づいて計画をつくって、少しずつでも進める必要があるんじゃないかという提言をしたこともあります。そういう計画が現実にあるかということも、今回の質問の中でも、担当者に聞いてみたんですが、現実にはない、できてない、何年もたっております。そういうことを繰り返しても、いわゆる在のほうの人たちには、そういう

政治の果実を味わっていただくことができないことになる。私が上下水で言っているのもそういうことなんです。

一方では、町の責任で莫大な税金つぎ込みます。それが悪いんじゃないですよ、そうしなけりゃならないから、やらないけないんですが、一方で在のほうの人は、単独槽であんた方の責任で、あとはやってくれというだけなんです。同じようにやっぱり金もかかっております。そういうことを考えると、どういうことを支援していかないけんかということをもっと真剣に担当課は考えないと、大体ほとんどのインフラの整備の課題では、物事、計画が一つ一つできておりません。

私が言いたいのは、そういう計画を、総合計画じゃありません、私は。せめてそれぞれ個々の課題で、下水はどう考えるのか、参加率を高めるには具体的にどげにするのか。例えば借入れ制度をつくるのか、そういうことをしっかり考えないと、これ以上進まないし、画期的な流れをつくることはできないと思ってるわけです。それで井戸のことも言ったんですが、私のそういう提案について、計画を個々にやっぱりきちんとつくっていくという点については、どのようにお考えでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 道路の修繕計画を大きな一つの例にして、対症療法的な、どういうんですか、管理っていうか、直すのではなくって、点検して計画的に整備していかないといけないんじゃないかっていうのは、全くそのとおりだと思います。本問のほうでもお答えいたしましたけど、うちの町、そういうのができてないということですので、それは調査、点検に大きなお金がかかるっていうような、大きな隘路があるっていうこともどうもあるみたいです。ただ、いろんな補助制度もあるようですので、その辺はよく研究してまいりたいと思いますし、もうそういう補助制度がなくなったら、これは国、県のほうに実情を話して、そういう制度設計もしていただかないといけない。国土の強靱化、防災対策、そういったことが向こう3か年も予算立てもできてるようですので、そういった中でも捉えていただきたい、そういうようなことも申し述べないといけないかなと思います。

長寿命化の関係の計画を云々っていうことでございましたけども、日野町公共施設等長寿命化基金条例っていうのができておまして、公共施設の長寿命化を図るための修繕改修、除却に要する経費に充てるため設置する。要はここでもう既に長寿命化をするためにはどういうことをやっていくかっていうのは、ある程度網羅的に考えられてる。それをそれぞれ単独の、それぞれの計画をやっぱりつくっていかないといけない、まずはそちら。ただ、そうですね、そういったことで進めていくのが今の流れかなと思います。それぞれ計画をやっぱりつくっていかないといけ

ないかなと思います。

○議長（小谷 博徳君） 8番、佐々木求議員。

○議員（8番 佐々木 求君） あんまり大きく構えなくても、私は実は計画はできるんじゃないかと思っておるんですが、個々の計画です。総合計画のような大きなものでなくても、担当課の皆さんはよく分かっておられるので、それをやっぱりまとめていけばいいんじゃないかなと思います。道の話が出たので道の話しますと、広域農道ありますね、町道。私の上のところの道ですが、例えば今、夏の時期に草刈り部隊は1班が編成されて回っておられます。それはそれで重要な仕事していただいております。ところが、刈り飛ばしでずっと来たために、それが何年越しになって水路がつかえとるところがたくさんあるんですよ。あれはね、もう1班増やしてでもやらないと、本当、いろいろまた事故が起きてくるだろうなとは思って見とるんですが、こうしたことが担当者やそこで仕事に携わる職員は分かるかもしれないけど、それ以外の人にはなかなか分からない。ですから、そういうことを一つ一つやっていくためには、まずそういう大まかな計画をやっぱり見る、そして点検をしてみる、こういうことが必要だと私は考えるわけです。最後にその辺の決意だけ伺って、質問を終わりたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 具体の事例を挙げていただいて、そういうことがある、そして、そういうことがちゃんとできるようにしないといけないんじゃないかという貴重な御意見いただいたと思いますので、どういう取組ができるか、担当課を中心に考えさせたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 8番、佐々木求議員。

○議員（8番 佐々木 求君） 最後に一言だけ言わせていただきますが、こうしたことを積み上げること、これが一番大事だと思いますので、職員の皆さんには新たな負担が増えると捉えられる方がおられるかもしれませんが、総合計画のようなものではなくて、地域をどう守り、安心・安全な生活をどう進めていくかという、根本的な姿勢を持っていただく上で、非常に大事だと思いますので、今後、そうした方向でよろしく願いしまして、私の質問を終わります。

○議長（小谷 博徳君） 8番、佐々木求議員の一般質問が終わりました。

---

○議長（小谷 博徳君） 次に、1番、中山法貴議員の一般質問を許します。

1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） それでは、私は日野高校の存続に向けた支援について質問をしたいと思います。

現在、日野高校は存続の危機です。入学者数が2年連続して募集定員の2分の1に届かず、鳥取県教育委員会が学校の在り方の検討に入っています。日野高校の存続には、来年度に入学者数の76名の半数である38名の入学者数を確保することが喫緊の課題となっています。寮の支援、公設塾の支援、地域との交流などの中期、長期の計画の日野高校魅力向上ももちろん重要ですが、目の前の課題である来年度の入学者数確保をクリアしないことには、その後がありません。

そこで質問いたします。1つ目、日野高校を何が何でも存続させる、人もお金もさらに投入してでも存続させるとお考えですか。覚悟をお聞かせください。2つ目、日野高校の未来にどのようなビジョンを持ち、どのような支援をしてきましたか。3つ目、日野郡内でも当然日野町がリーダーシップを取っていかないとはいけません、江府町と日南町へはどういった指示をしていますか。すみません、ちょっとここで指示という言葉が質問書に書いたんですが、申し訳ございません、これを要請と訂正させてください。町長、答弁も、どういった要請をしていますかということでお答え願えればと思います。質問続けます。また、日野高校魅力化向上推進協議会では、実務組織のワーキンググループへどのような指示をしていますか。指示が組織全体に的確に届き、現場がスムーズに動ける体制は整っていますか。4つ目、これから入学者募集の3月までに、どう支援していく考えですか。具体的な戦略と戦術をお聞かせください。また、それを行う体制はできていますか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 1番、中山議員さんからの御質問です。日野高校の存続に向けた支援についてということ、質問の趣旨お伺いしますと、熱い思いが伝わってくる、そういったふうにあります。

まず、日野高校の存続をさせる覚悟はいかかとお尋ねでございます。日野高校は日野郡唯一の県立高校であり、日野郡の最高学府であります。また、新しい時代に対応した高等学校教育に既に取り組んでいる先進的な高校でもあります。そのような高校がここ日野町にあることは、町にとって大きな誇りでもあり、また、町の活性化にとっても非常に大きな役割を担っていただいております。その日野高校について、是が非でも存続をさせていかなければなりません。今年度初めには、鳥取県教育委員会教育長を訪問し、日野高校の存続について強くお願いをし、また、日野郡3町が引き続き日野高校の魅力向上に精いっぱい取り組んでいく意思をお伝えいたしました。日野高校の魅力向上を推進していく上で必要と思われる人材や予算につきましては、今までも積極的に措置させていただいております。今後も他の2町とも協議をしながら検討してまいりたいと考えております。

次に、未来にどのようなビジョンを持ち、どのような支援をしてきたかとお尋ねでございます。令和2年6月に改定いたしました日野高校魅力向上推進計画の中で、魅力的な日野高校と持続可能な日野郡をつくる、これをビジョンとして掲げております。魅力ある高校づくりが地域存続の可能性につながるという意味において、高校の存在意義は非常に大きいと考えております。日野郡の最高学府として、地域と連携、協働した教育活動を推進するとともに、その教育活動が将来、日野郡の未来を担う子供たちを育成する役割を担うことを目指しております。支援につきましては、経済的な支援といたしまして、コーディネーターの人件費、ふたば寮及び入寮生への支援を行っております。コーディネーターを配置することで、産業社会と人間などの授業に深まりや系統性が出てきており、その結果、社会とつながる協働的、探求的な学びができております。

次に、3つ目に、江府町、日南町にどのような要請をしているのか。日野高校魅力向上推進協議会は、ワーキンググループにどのような指示をしているか。指示が組織全体に的確に届き、現場がスムーズに動ける体制が整っているかとお尋ねでございます。本事業は、日南町、日野町、江府町の日野郡3町と、日野高校、日野振興センター、県教育委員会とが連携して取り組んでおります。本事業を進めるに当たって、協議会は意思決定の場であり、実務者組織としてワーキンググループを位置づけております。ワーキンググループでは、協議会で意思決定された事項について、その具体について検討、実行をしております。協議会で主に議論されていることは、日野高校への入学者数をいかに増やしていくのかということでございます。魅力向上に関わる全ての事業の成果がここに大きく現れるということは誰もが認識してるところでありますので、ワーキンググループの中で役割を分担しながら、一つ一つの取組を丁寧に進めているところでございます。

最後に、これから3月までにどのような支援をしていく考えか、具体的な戦略と戦術はいかに、また、それを行う体制はできているかとお尋ねでございます。先月20日に開催しましたワーキンググループでは、推進計画で短期計画として掲げている具体的施策について、進捗表を基に振り返りを行い、これから今年度3月までのスケジュールも、その中で確認をいたしました。具体的な取組としては、一人でも多くの志願者、入学者の獲得を目指していくために、進路情報を明確化したチラシの作成、塾、予備校への広報などを行うように検討を行っております。あわせて、令和2年度の振り返りを基に、推進計画の改定を進めていくこととしております。以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） 改めて申し上げます。日野高校は2年連続して入学者数が募集定

員の2分の1に届かず、廃校危機に直面しています。この廃校危機を脱するには、とにかく来年度の入学者数を定員の76名の半数である38名は確保しないとけません。確保しないとけません。そのために、日野郡3町で日野高校魅力化向上推進協議会を設置しまして、目標達成のための事業を進めてきました。

本日聞きたいのは、主に2点です。一つは、覚悟を持ってやっていただけるか。2つ目は、入学願書、もう一般入試の受付が2月です。2月までにもう時間がありません。日野高校魅力化向上推進委員会という組織を活発に迅速に動かして、やれることを最後までやり切っていただけるかということです。

まず、日野高校の存続につきまして、町長のお答えは、是が非でも存続させていかなければなりませんというお答えでした。ぜひその気持ちで存続に向けた働きをしていただきたいと思いません。

議長、これ教育長にも今、質問してよろしいですか。

○議長（小谷 博徳君） いや、今まず、町長に質問をするような感じでお済みみたいに終わっただけど、どげだかな、そこんところ整理……。

○議員（1番 中山 法貴君） それが2つのテーマです。

○議長（小谷 博徳君） いや、いいですよ。

○議員（1番 中山 法貴君） いいですか。じゃあ、ちょっと教育長にも覚悟のほどをお聞きしたいと思えます。よろしくお願ひします。

○議長（小谷 博徳君） 生田教育長。

○教育長（生田 進君） では、お答えいたします。私も魅力向上推進協議会の委員をしております一人です。町長は会長ということで、日野郡で本当に日野高校を存続、維持していこうっていう気持ちは、委員全員の念願でございます。たまたま本町の、教育委員会のほうも事務局を受け持っております、コーディネーターも教育委員会のほうにおりますので、本当に日々一生懸命、一人でも多くの入学者を増やすということで、各方面に働きかけております。そうした日野郡全体の熱意が少しでも多くの人に広がっていけばいいかなというふうに考えているところです。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） 覚悟を持ってやっていただけるということでした。

この日野高校魅力化向上推進協議会、日野高校の存続とさらなる魅力向上のために設置された協議会です。この協議会の会長は日野町長、塚田淳一となっています。トップ中のトップ、最高



責任者です。こういった日野高校魅力向上推進計画も出されております。

来年度の入学者数なんですが、この計画どおりにいけば38名以上確保できると。では、38名に届かなかった場合、推進計画がうまくいかなかった場合、誰が責任を取りますか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 日野高校の魅力向上推進計画、日野高校魅力向上推進協議会、日野郡3町の町長、さらには教育関係者、それから学校関係者、それと一番有力な、委員さんではないんですけども島大の先生、そういった方々でこの計画を進めていこうということで今取り組んでおります。来年の占いはちょっとできません。そういうことにならないように一生懸命今取り組ませていただいているということで、一つの仮定の中で、こういうことになるからじゃあどうするかっていうのはないと思いますし、それと、総括的にいえば、この推進計画は、例えば会長一人で作ったものではないってことでございます。協議会のほうでいろいろまた、いろんな結果があると思います。定員をオーバーして、物すごい応募者があった。どうやって振り払おうかと、そういうような世界もあるのかなと思いますので、それは結果っていうか、状況を見ながら、この推進計画に照らして検証するっていうことになろうかなと思います。責任を誰かっていうようなことは全然まだ今考えておりません。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） この日野高校魅力向上推進計画の中に、埴田町長は、不退転の覚悟でというふうに書かれてるんですね。ですので、必ず成功させる、責任は私が取りますとおっしゃっていただけたらと思ったのですが、そこまでの覚悟は言えないということでしょうか。いかがですか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 議会のルールとして、反問権がないっていうようなこともありますので、どういんですか、不退転の覚悟である、まさにそうです。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） では、これまでの日野高校魅力向上推進協議会の事業、どのようなことを、特に入学者数増加に対して、いろんなところにアプローチしていったと思います。中学校、あとは県外の中学校、また生徒、保護者、また教員の方へのアプローチなどをされたと思いますが、どのようなことを協議会では、入学者数を特に増やすということで今のところされてこられたのでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埜田 淳一君） この6月に改定いたしました日野高校魅力向上推進計画、この改定前ですと、極端な言い方すれば、美辞麗句があって、こうしないといけないよねっていうようなことが随分盛りだくさんに書かれてた。ただ、その書かれてることをどうやって点検していくかっていうことがなかなかできなかった。要は、進捗管理、さらには数字で表した成果のようなものがないと、やはり評価できないんじゃないかっていうことで、この計画を改定いたしました。ですので、今、この推進計画に基づいて、いろいろなアクションをしてるっていうことでございます。受験者確保のために具体的にどういうことをやってるのかっていうのは、ここに基本的に羅列してあるんですけども、ちょっと実態について、教育課長のほうから補足説明させます。

○議長（小谷 博徳君） 砂流教育課長。

○教育課長（砂流 誠吾君） 協議会でこれまでにどのようなことをやってきたかというお尋ねです。特に入学者数の確保に向けてというところで絞ってお答えをさせていただきたいというふうに思います。

まずは、中学校への説明会、学校説明会のほうを高校がされておりますので、それを支援をさせていただいている、一緒に行って説明をしたりというところがございます。それから、オンラインでの学校説明会も実施をしております。それから、地域未来留学ということで、全国規模で県外からの入学者を求めるという取組がございます。本年度はコロナ禍でございましたので、実際に集まったの開催はできませんでしたが、それをオンラインで開催をするというふうなことがございましたので、そちらのほうへの参加をさせていただいております。それから、協議会単独で西部地区内のほぼ全ての中学校のほう、ちょっと日程が合わなかった学校があって行けてないところもあるんですけども、中学校のほうを回らせていただき、校長先生や進路担当の先生とお話をさせていただきながら、日野高校の魅力をお伝えしたというふうな取組も行っております。それから、シンポジウムを開催をさせていただき、そこに中学校の先生方、高校の先生方、それから地域の方々も来ていただいて、日野高校、魅力をどのように高めていったらいいかというような形で御協議をいただき、中学校の先生のほうにも日野高校っていうものに対する認識を新たにさせていただいたというようなことをやっております。あとは、地域に出かけていく、日野高ショップであるとか、そういったところで積極的に出かけていって、日野高の魅力をアピールしてるというところがございます。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） 様々PRをして入学者確保に向けて動いておられますが、成果の一つとして、学校説明会の参加者数が一つの途中経過、成果になるのではないかと思います。

学校説明会、何回、いつ開催されて、何人の参加がありましたでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 具体の数字、そういった回数とかは担当課長から説明させますけれども、学校関係者、そして協議会関係者のお話を聞きますと、このコロナ禍の中で、今議員さんおっしゃられた人数の関係、やはり一堂に集まって、説明会を開くっていうのはなかなか苦しい状況にあったっていうようなことも私、伺っておりますし、その辺ちょっと、どういうんですか、御配慮いただきたいと思います。数字は分かりますか。ちょっと補足させます。

○議長（小谷 博徳君） 砂流課長。

○教育課長（砂流 誠吾君） 大変申し訳ありませんが、今、手元に数字を持っておりませんので、ちょっと答弁はできません。申し訳ありません。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） では、次の2番の質問のほうに行きたいと思います。

経済的な支援もされているということで、今年の令和2年度の予算では、日野高魅力向上事業、コーディネーターに480万円、ふたば寮の支援に649万円、公設塾に予算723万円、これ合計すると2,152万円となっております。やはり成果を出していただきたいと思いますが、とにかく3月、一般入試の願書受付は2月までに、何とか一人でも入学していただく方を増やさないといけません。そこで、3月までにも追加の支援を行う考えはありますか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 入学志願者、そして定数の半分以上、これは一つ、本当に重要な命題であります。今、日野町単独でも、そして日野郡3町でもいろんな仕組みの支援をさせていただいております。そういった中で、一つの進め方の計画を先ほど来の魅力向上推進計画の中で規定し、それを着実に進めていく、そういった進行管理をしております。そういった中で、追加の予算とか追加の何かっていうのは、今々は出てない。もうかなり、どういうんですか、仕込まれたのかなっていう感じを持っております。ただ、何か御相談があれば、私、今、町長の立場なんですけど、何か協議会のほうから御相談があれば、それは真剣に検討しないといけないなと思います。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） 入学者数38名を上回らなければならないわけなんですけど、様々なアプローチも、活動もしている、予算もつけているというところなんですけど、今のところの手応えはいかがでしょうか。38名、上回りそうでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埜田 淳一君） 議員さんからは未来形についての御質問が非常に多いんですけども、上回るように願って、いろんな具体の施策っていうか、行動を取らせていただいております。どういんですか、学校関係者の方に手応えはどうですかっていうようなお話を聞くこともありますけれども、学校関係者の方もベストを尽くして、あとは極端に言えば天命を待つ、ベストをさらに尽くしていくっていうような、そういうことでございまして、どうなのかなっていう予測はちょっとまだしてないっていうか、持てないっていうか、分からない。一生懸命やってるっていうことだけはすごく学校関係者、協議会から伝わってきます。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） では、3番目の質問のほうに行きます。日野高魅力向上推進協議会が、もう核となっておりますし、キーだと思います。この質問で、指示が組織全体に的確に届き、現場がスムーズに動ける体制は整っていますかという質問にはちょっと答えていただけてないんですが、これいかがでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 埜田町長。

○町長（埜田 淳一君） 御質問の趣旨は、協議会の基のワーキンググループがしっかり活動しているかっていうようなことだと思います。ワーキンググループ、しっかり活動していただいているっていうふうに認識しております。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） この協議会では、協議会が意思決定をし、実務組織がワーキンググループということなんですが、その意思決定の方法というのはどのような方法で行っておりますか。

○議長（小谷 博徳君） 埜田町長。

○町長（埜田 淳一君） 協議会を開催して、意思決定をするっていうことです。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） 分かりました。先ほどの質問で、体制は整っているというお答えでした。つまり、組織運営は順調だと、ばっちりいってるぞということですが、そのとおりでしょうか。ばっちりいっていると、組織運営は。

○議長（小谷 博徳君） 埜田町長。

○町長（埜田 淳一君） 私も形容詞をよく使うんですけども、ばっちり、どういんですか、ばっちりっていうか、私、先ほど答弁させていただきました、ワーキンググループさん、一生懸命目標に向かって行動していただいている。それでお答えになると思います。

○議長（小谷 博徳君） 1 番、中山法貴議員。

○議員（1 番 中山 法貴君） では、4 番目の質問に移ります。今後、もう時間が、期限が迫っている中で、どういうことをやっていくかということで、チラシの作成と塾、予備校への広報ということをお答えいただいたんですが、これはいつ行う予定でしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 埜田町長。

○町長（埜田 淳一君） チラシの作成であったり、塾、予備校への広報、そういったことをいつ行うかっていうことでございます。具体のことですので、担当課長のほうから説明させます。

○議長（小谷 博徳君） 砂流教育課長。

○教育課長（砂流 誠吾君） では、2 点についてお答えをしたいと思います。

まず、チラシの作成につきましては、現在、作成中でございます。これを今週土曜日に開催をするシンポジウムの折に挟み込んでお配りをするというふうな考えでおります。それから、塾、予備校への広報につきましては、こちらも現在行っておりまして、1 2 月中をめどに配付をしていきたいというふうに考えております。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 1 番、中山法貴議員。

○議員（1 番 中山 法貴君） では、その他の3 月までの取組の予定をお聞かせください。学校説明会などはもう行わない予定でしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 砂流教育課長。

○教育課長（砂流 誠吾君） そのほかの取組についてでございますけども、まずは町内のコミュニティーチャンネルとか広報紙を活用した情報発信を、まず日南町のほうでもしていただくように、今、計画を進めているところでございます。それから、江府町、日野町におきましては、日野高校の紹介記事のほうを広報紙のほうで載せていただくように進めているところでございます。それから、協議会の活動をPRするパンフレットやポスターにつきましても作成を予定しておりまして、こちらにつきましては島大の作野先生と今、事務局とで協議中でございます。それから今、取り組もうとしているのはそういうところでございます。

○議長（小谷 博徳君） 1 番、中山法貴議員。

○議員（1 番 中山 法貴君） もうこの時期に来ますと、とにかくPR、営業だと思います。先ほど町長が、手応え分からないとおっしゃられました。分からんようであれば、もうとにかくやり切る、もうやってやってやりまくるしかないと思います。町長、教育長自ら現場に行ってPRするという方法もあると思います。それがスケジュール的にか、密になるとかいう問題があるのであれば、動画なんかでもできます。やり方はいろいろあります。自ら出て行って、日野高校

いいぞ、日野町いいぞというようなことはされてはいかがかと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 日野高校のPRのために、いろんなことをすべきじゃないかなっていう御提案だと思います。出かけていく、さらには招き入れる、そういったことも必要なのかな、必要であればそういったこともさせていただかないといけないかなと思います。

プラスで、私、やっぱり手応えについては若干謙遜してっていうこともあるんですけども、本当に日野高校の、どういうんですか、姿の露出度っていうか、メディアに載る回数、随分増えてきたなと思います。そういったものの反響として、議員さんにもちょっと前に御紹介したんですけども、日野高校のホームページの8月24日以降のアクセス数、今朝も確認しましたが、3万台に乗っております。1日当たりになると280ぐらいのアクセス、さらには、県教委のホームページ見ますと、日野高校、今、こんなイベントしてます、こんな取組をしてますっていうのが3つぐらいざざとつながってるんです。ほかの県立高校はぼつん、ぼつんのような感じがして、あっ、日野高校、頑張ってるな、日野高校、情報発信してるなっていうようなことを感じました。そういったことも通じて、ぜひ志願者、増えてほしいな、そして、その中から入学者半数以上確保したいなっていうふうに考えます。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） 自ら現場に出向く、PR動画に出るということについて、ちょっとお答えいただけなかったんですが、いかがですか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） どんな効果があるのかちょっと分からないですし、そういうリクエストも今のところないので、ちょっと考えてみたいなと思いますけれども。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） 町や協議会で意識は高まっているんですけども、日野高校存続へは、高校の地元である日野町民の存続への意識の高まりも必要だと思います。町民で何とか残していこうという意識の高まりも必要だと思います。それについてはどう考えておられますか。何か働きかけをされていますか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） まさにその部分ですよね。学校と行政だけで上滑りしないように、本当に地域の学校であるっていうことで、協議会の中にも地元関係者、PTAの関係者、そういった者も入っていただいておりますし、いろんな日野高校の魅力関係のシンポジウムをさせていただ

くのも、そういった、どういうんですか、狙いがあるわけです。ぜひたくさん参加していただきたいってこの場では言いますけれども、コロナの中ですので、定員は限られてると思いますけれども、ぜひ関心を持っていただいて、盛り上げていただきたいなっていう気持ちを持っております。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） とにかく、一般入学、入学者、願書受付はもう2月です。もう時間がとにかくありません。そこで、やはり日野町には、リーダーシップを取るような形で、どんどん活動を進めていっていただきたいと思います。日野高校魅力化向上推進協議会では、協議会が意思決定機関、ここをもっともっと活発に動かして、意思決定をしっかりとやる、リーダーシップを取る、そして、具体的な方針を決めて、こうやっていくと決めて、ワーキンググループへの確にやるんだと、やってくださいと伝えて、現場に動いてもらうこと。その動きを見て、何ができていて何ができないかをしっかり分析して、分析したらもうすぐに修正して、とにかくもう時間ない中、迅速に組織全体で事業を進めていくことが肝腎です。とにかく町長、リーダーシップを発揮してください。もう時間がありません。一人でも多くの入学者数を増やすように、最後までもう全力で走り切って、やり切ってください。

最後に、町長、教育長の思いを聞いて、終わりたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 本当に端的に言いますとそのとおりなんです。それをしていけないといけない。頑張っていきたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 生田教育長。

○教育長（生田 進君） 議員さんの本当に熱い思いをいただきました。町長、そして教育長も一生懸命頑張るんですけども、議員さんを含め、先ほども話にありました、地域の方々みんな、総出で、総がかりで日野高の入学生を増やすという取組に邁進してまいりたいと思います。

現在、町長の答弁にありました、コーディネーターは本当に細かく細かくチェックしながら、進捗表に従って、様々な取組を進めております。これはいつ誰がどのようにやっていくんだっていうような具体的な指標を基にしながら、できることできないことっていうのを仕分けして、具体的に取り組んでいっておられます。そうした日々の積み重ねが、必ずや少しでもよい結果につながっていくんじゃないかなと期待しているところです。質問ありがとうございました。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） 不退転の覚悟でよろしくお願いします。ちなみに不退転、これ意

味調べたんですけど、退かないこと、何事にも屈せず、固く信じて心を曲げないことという意味です。不退転の覚悟でよろしくお願いします。質問終わります。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員の一般質問を終わります。

以上で一般質問を終わります。

---

○議長（小谷 博徳君） お諮りいたします。本日の会議はこれで散会にいたしたいと思いを。

これに異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小谷 博徳君） 異議なしと認めます。よって、本日はこれで散会することに決定いたしました。

本日はこれで散会します。会議の再開は12月15日午前10時といたします。御協力ありがとうございました。

午前11時30分散会

---